

# カナダ金融政策（2020年10月）

## QEプログラムを調整

2020年10月29日

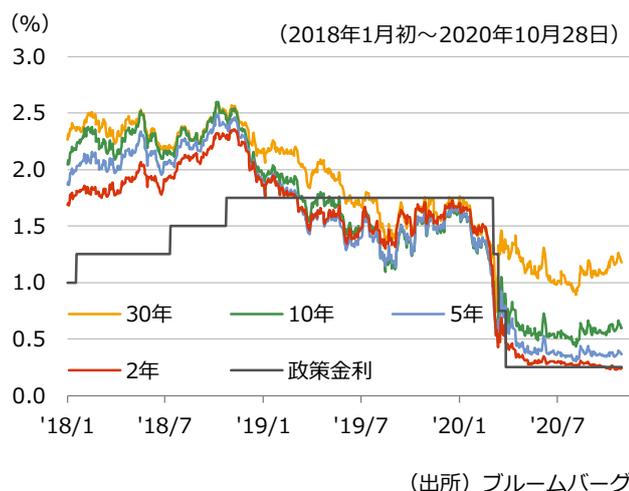
### 国債購入ペースを低下させる一方で、購入する債券の年限を長期化

カナダ銀行は10月28日（現地）、金融政策決定会合を開催し、政策金利を市場予想通り0.25%に据え置く一方で、QE（量的緩和）プログラムを調整すると発表しました。具体的には、①国債購入ペースを従来の週最低50億カナダ・ドルから週最低40億カナダ・ドルへ徐々に低下させること、②購入する債券の年限を長期化させることです。②については、家計や企業にとって最も重要な借入金利に対して、より直接的な影響を与えるためだと説明しています。なお、①と②の組み合わせによって、QEプログラムは少なくともこれまでと同等の金融刺激効果を提供できるとしています。購入額が減少するからといって金融緩和策が出口に向かう訳ではなく、むしろ、購入ペースを落とすことで量的緩和の長期戦に備えていると解釈できます。

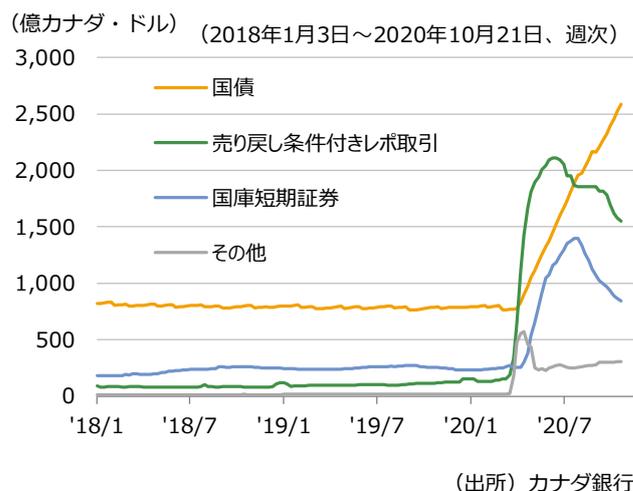
また、政策金利に係るフォワード・ガイダンスは、前回までの「2%のインフレ目標が持続的に達成されるために、経済の弛みが吸収されるまで政策金利を据え置く」の後に「我々の現在の予測に基づけば、2023年まで利上げはない」と付言されています。これまでのフォワード・ガイダンスとカナダ銀行の経済見通しに基づけば、2023年まで利上げしないことは自明でしたが、あえてその文言を付け加えることで、短期債の購入減を補う意図があると思われます。

当日の金融市場は、短い年限の国債利回りが小幅に上昇し、長い年限の国債利回りが低下するという素直な反応でした。今後も状況の変化に応じてQEプログラムを柔軟に調整する期待があるため、国債利回りは安定的に推移すると考えられます。

#### カナダの国債利回りと政策金利



#### カナダ銀行の資産残高



#### 当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。